

## レフェリーレポート

平成27年7月 大分県ハンドボール協会  
宮崎和彦・堀川智宏・内海秀昭

全国大会を担当するレフェリーが集う研修会として、レフェリングや使命等について下記研修会にて受講しましたので、講義・研修・議論の内容について報告します。

### 研修会

名称 平成27年度 全日本大会担当レフェリー研修会  
期日 H27.6.27-28  
会場 味の素ナショナルトレーニングセンター  
主催 (公財)日本ハンドボール協会  
講師 藤井俊朗



### 講演：『上級レフェリーに求めるもの』

- ・全日本大会は現在11大会ある。レフェリーのペア数としては153ペアが必要となる。これはレフェリーの全体数からみると7%の割合となる。全国大会担当レフェリーはその自覚を持つ必要がある。
  - ・レフェリーの使命とは、  
チーム・プレーヤーにトレーニングの成果を存分に発揮させる  
コート内と交代地域の秩序を保つ
  - ・使命を果たすために  
競技規則に関する正しい知識に裏打ちされた判定⇒考え方の統一  
ラフプレーとスポーツマンシップに反する行為の排除  
妥当性と信頼性のある判定  
心身共にコンディションを整える
  - ・レフェリーとしての準備が不可欠  
ハーフタイムでのウォーミングアップを、プレーヤーとともに入念に行う。コンディション調整の最後のチャンスであり、レフェリーの本気度をアピールするための最高のチャンス  
オフィシャル席との打ち合わせ
  - ・様々な大会で多くの試合を担当すれば、必ず吹き損じや失敗がある。しかしチームやプレーヤーは常に厳しいトレーニングを積んでいることを決して忘れてはならない
- ★レフェリーは常に周囲から注目されている。
- 大会の種別に関わらず、レフェリーとしてのプロ意識を持ち、丁寧かつ誠実に取り組み、判定や競技運営はもちろん、上級レフェリーとしてふさわしい行動や言動を心がける、すべてのレフェリーの良き手本となるよう。

**◎全日本大会にレフェリーとしてノミネートされた自覚と責任、誇りを持って、どのような状況においても上級レフェリーにふさわしい対応・覚悟が求められる。**

### 研修 1 : 『罰則の適用について再考する』

- 明らかに（ボールではなく）相手の身体を狙った違反
- 罰則を適用すべきスポーツマンシップに反する行為

#### ■段階罰を適用するための解説

- 罰則を探し（作り）出さず、明確なものを罰する
- 競技規則に記載されている判断基準を用いる
- 競技の開始直後から 8:4-8:5 を適用することがある（特に 8:4）
- 重大な場面が生じたときには、8:4/8:5 のどちらを適用するか、時間をかけて判定
- 競技時間中、双方のチームに々判断基準を用いなければならない
- パッシブプレーの予告合図中・・・判断基準に変化はない

#### ■心得ておくべき事項

- 速攻時の段階罰に相当する違反⇒少なくとも 2 分間退場
- 速攻を妨害する戦術的な違反⇒ 2 分間退場
- 空中のプレーヤーを押し⇒結果として 2 分間退場（8:4）
- のど、首、顔面、頭部に対する攻撃⇒ 2 分間退場またはそれ以上
- 競技の開始直後から、ピボットプレーヤーと防御側プレーヤーを観察しておく
- ピボットポジションやウイングポジションでの攻防の解説も参考にすること

しかし、過剰な反応やハリウッドアクションにも注意しなければならない

### グループ討議：『全日本大会担当レフェリーとしてのリーダーシップ』

・全日本大会を担当するレフェリーとしての役割・責任・リーダーシップとは何か  
→レフェリーは人間性を見られる。人間性を磨く（D級であっても）。

『リーダーシップ』から生まれる指導は押しつけとも紙一重。指導よりも育成補助の観点で距離をおいては

○以下、グループ討議（九州ブロック）で話題となった各県の情勢、課題など

- ・本研修も含めて、全国大会での経験の九州ブロックへの還元
- ・レフェリーレポートの提出
- ・ペアの年齢に格差があり、同年代でのペアが少ない
- ・高校生レフェリーを登録するが、担当できる試合が少ない。
- ・D級→C級へ昇級するレフェリーが少ない
- ・上級レフェリーの固定化。若い世代が少ない
- ・女性ペアの養成
- ・強化・競技・運営をまわしていかなければならない。マンパワーを増やす
- ・国体で強化した選手が審判員になっている
- ・将来の全国大会に向けてA級を養成するが、絶対数が少ない
- ・大学生・高校生レフェリーが多いがペアの確立がむずかしい

## 研修 2 : 『競技規則の解説』 ※ビデオテストのため割愛

## 研修 3 : 『レフェリングの実際』



- ・ 基本的に忠実であること
- ・ 徹底的な準備＝自信 & レフェリングを助け要素
- ・ 『応用』という言葉は『自己流の動き・ジェスチャー』、『自己流の競技規則の解釈』とはき違えてはならない。
- ・ 先般起こったゴールイン or ラインクロス(着地)のジェスチャーは、大歓声の中では混同しがち。

ラインクロス(ノーゴール)の場合は、左図のゴールキーパー・スローに加えて、空いている片方の腕(写真の場合は左手)を上下させて「着地」などをアピールする

ゴールキーパー・スロー  
のジェスチャー

## 研修 4 : 『レフェリーの心理について』 ※アンケート調査のため割愛

各種競技の審判員の心理面の強化のために専門機関がアンケート調査を実施。

## 研修 5 : 『競技運営に関して』

日本協会HPに掲載されている競技規則、レフェリーハンドブック、テクニカルデレゲートの任務、各種通達について再確認したもの。特に、先般の事案に関して、「レフェリーの得点の管理」について、記録席(オフィシャル)との連携を深めることが重要となる。

- ・ レフェリーの競技中の役割
- ・ 記録席から見た競技の現状
- ・ テクニカルデレゲート(TD)
- ・ TDの果たす役割
- ・ TDとレフェリー
- ・ ゴールイン後の役割
- ・ レフェリーと記録席との事前の打ち合わせ
- ・ 競技運営に関する確認
- ・ レフェリーの行動
- ・ 得点時の記録用紙の書き方と配慮
- ・ 実際の状況と対策
- ・ TDの任務
- ・ 外傷など
- ・ 通信機器の使用

**すべての試合に緊張感を持って臨む**

以上